# 2010年度のボランティア・NPO活動センターをふりかえって

センター長　古川　秀夫

2001年本学に開設されたボランティア・NPO活動センターは大きな節目となる10周年を迎えました。そこで、従来から恒常的に展開していた活動に加え、いくつかの10周年記念事業を実施しました。その実施・運営にあたっては、学生スタッフとセンター職員が役割を分担し、やり切ることができました。

第一に、10周年記念講演会・祝賀会を開催しました（12月４日）。「ネットカフェ難民」という言葉と問題を広く認知させたことで有名なTVジャーナリストの水島宏明氏を講師として招き、「今、自分が社会に対して出来ること」のタイトルで講演いただきました。取材の体験談や映像などを交え、日本の貧困問題や市民活動団体の取り組み、ボランティアや市民活動団体への期待などをお話いただきました。ジャーナリストとして第３者的立場にとどまるのでなく、知り合ったネットカフェ難民の若者の身元保証人となって、物心両面からの支援をされていることは大きな共感を呼びました。記念祝賀会では、センターの関係団体や学内者、さらには学生スタッフのOBなど関係者を招き、冒頭に若原学長が挨拶を行い、10年間の思い出話や関係団体同士での積極的な交流ができました。また、講演会会場の周りにセンターの活動を展示し、学生スタッフが展示内容の説明を行いました。

第二に、「全国ボランティアコーディネーター研究集会」の共催を行いました（２月26･27日）。日本ボランティアコーディネーター協会が毎年開催する研究集会について、会場を提供するとともに、運営全般に職員・学生スタッフが関わりました。研究集会は各種テーマに関する分科会形式で基本的に実施されるのですが、「市民の力で10年後の社会を“アツク”する」と題する公開シンポジウムが全体会として冒頭に配置されました。パネリストの１人には、消費者庁第２代長官で元我孫子市長の福嶋浩彦氏を招き、協会の理事で当センターの副センター長でもある筒井のり子氏も加え、活発な議論が行われました。10年後の市民社会に明るい期待を持たせるような内容でした。

第三に、10周年を記念して、報告書を作成しました。センターの過去10年を振り返りつつ、今後を展望しようとするものでした。広く配布することを予定していますので、ご批判やご意見を糧として更なる一歩につなげたいと思います。

恒常的な活動である企画型プロジェクトについても、新たな展開をすることができました。それは、国内と国際のバランスある活動展開とでも総括できるものです。

従来、地域貢献、福祉、環境関連のNPO、NGOとの交流を通して、ボランティア等の体験学習を行う海外体験学習プログラムについて、参加費用の30％を補助する条件で、参加学生を募集してきました。教員、学外団体から提案されたプログラムを治安・衛生面や参加費用などの点で精査し、提供してきました。本年は海外で実施するものに加え、副センター長である谷垣岳人氏の提案と企画による国内ボランティア体験プログラムを実施しました。「森にふれあい森に学ぶ」というタイトルで、滋賀県栗東市において間伐体験などの体験学習を行いました。海外プログラムに比べ、費用や日程の点で参加しやすいものとなっており、新たなニーズを見出すことができました。

また、勉強会、講座のレベルではありますが、内なる国際化を考えるための取り組みとして「滋賀の多文化共生を考えよう」、「世界丸見え!ゲームで体験!!あなたとつながる貧困問題!」などのイベントを開催しました。瀬田キャンパスの立地する滋賀県はブラジルの日系人を中心に外国人労働者の受入人数で関西一の規模となっています。リーマンショック以降の不況で多くが帰国しましたが、残っている人たちは日本定住を希望されており、より一層の支援を必要としています。

センターの活動の全体と詳細は後の紙面で触れられています。当ボランティア・NPO活動センターの創設10周年を経ての将来展開は、それを基盤としてしかありえません。そこに萌芽も飛躍も展望できるものとして報告書を一読いただければ幸いです。